

司書オススメ! 今月この3冊

痛み^{みちしるべ}の道標

古内一絵／著
(小学館)



会社のノルマを達成していくうちに多額の借金を負った上、会社の不正の罪を着せられそうになった達希は絶望し、屋上から飛び降りてしまいます。しかし気がつくくと、達希のそばには15年前に亡くなった祖父がおり、達希の命を救ったと話します。そして達希に、大金が入っている自分の隠し口座を教える代わりに、太平洋戦争の際に従軍していたボルネオ島で知り合った女性を探すことを頼んできます。行き場のない達希は、祖父の霊とともにボルネオ島に向かい、その女性を探し始めます。そして、その中で戦争の悲惨さを改めて知っていき、今の世を生きていることの大切さに気がつき、新たな人生を切り開いていく決意をします。

物語の中で、戦争の悲惨さと、現代社会の中で自分の力をつけながら生きていくということを伝えてくれる小説です。

あわい

染谷果子／著
(小峰書店)



不思議な力を持つ主人公あわいは、登校拒否5日目の小学6年生。そんな彼女のもとにある夜あやかしの猫又とむじなが現れ、「失われた百鬼夜行を復活させたいから協力しろ」と言い出します。昔懐かしい夜の闇も自然も失われつつある現代で、息も絶え絶えに生きるあやかし達と、なんだかんだで付き合わされる主人公達が、百鬼夜行を復活させるために奮闘する物語です。思い出を慈しみ大切に作るあやかし達にどこか切なさを感じますが、不思議と重苦しさを感じさせない軽やかさがまた、魅力的です。表紙の絵や挿絵も素敵で、想像力を掻き立ててくれます。この本がおもしろかったら、「ときじくもち」という続刊もぜひ読んでみてください。小学生から大人まで楽しめます。



極北へ

石川直樹／著
(毎日新聞出版)



写真家である著者は、辺境から都市まで、世界中を旅しながら作品を発表しています。特に、アラスカやグリーンランドなどの「極北」と呼ばれる地域へは、何度も旅を重ねています。

その旅の原点は、17歳で初めてインドを1人で旅したことからはじまります。旅以降、学校生活に自分が進むべき活路を見いだせなくなった彼は、世界中を旅して生きていくにはどうしたらいいのか考え、悩みはじめました。20歳の時、アラスカの北米大陸最高峰のデナリ山気象観測隊に荷物運びの1人として参加することになり、登頂に成功しました。

極北への旅を語る著者の言葉は、自然の厳しさや過酷さだけではなく、悠久の時を感じさせ、深く、美しく、著者の原点となった極北への旅の話が綴られます。



町をきれいに
クランピー情報局

リチウムイオン電池などの
充電式電池を含む小型家電の廃棄

問 環境課ごみ減量係 ☎95-9899

☑ 充電式電池によるごみ処理施設での火災が全国で発生しています

充電式電池は、モバイルバッテリーや加熱式たばこ、携帯電話、ビデオカメラなど様々な電化製品に使用されています。近年、全国のごみ処理施設での火災が多くなっており、その原因の多くが充電式電池と言われています。充電式電池は圧縮されると発火することがあり、正しく分別されないことで周囲にある可燃ごみに着火し火災が発生します。

☑ 充電式電池を含む小型家電は可燃ごみに入れないで

地域で回収する燃やすことのできるごみは、ごみ収集車で圧縮して運搬します。また、クリーンセンター衣浦においても、直接搬入された可燃性粗大ごみは、破碎処理をしてから焼却されます。充電式電池を含む小型家電を可燃ごみや可燃性粗大ごみに決して入れないでください。

☑ 正しく分別して資源ごみへ出してください

充電式電池を含む小型家電は、資源ごみステーションの「金属類・その他分別できないもの」の回収箱に入れてください。皆さんの協力が、安心安全なごみ処理につながります。

☑ 充電式電池のみは環境課窓口でも回収しています

充電式電池は、電池や使用機器のメーカーに回収再資源化が義務づけられています。回収ボックスを設置している回収協力店(家電販売店など)があるので、電池の電極にビニールテープを貼り付けるなど絶縁してから出してください。環境課窓口にも設置しています。

